

長期紛争地域における食料の安全保障と越境交易 — ソマリア国境地域の場合 —

Food Security and Cross-Border Trade in a Region of Protracted Conflict:
The Case of the Somalia Borderlands

講師 **ピーター・D・リトル教授**

エモリー大学文化人類学科 (京都大学大学院アジア・アフリカ研究研究科客員教授)

Professor Peter D. Little
Department of Anthropology, Emory University

日時：2008年6月23日(月) 17:40~19:10

場所：大阪大学人間科学研究科東館106講義室

参加：無料・事前申込不要(英語講演)

主催：大阪大学グローバルコラボレーションセンター
大阪大学グローバルCOEプログラム

「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」

ソマリアは1991年以降、機能する政府が存在せず、現代史上もっとも長く無国家の状態にある。このセミナーでは、ソマリア南部特にジュバ川下流地域の牧畜民と商人が、中央政府の不在の状況下で、食料の安全保障や社会福祉に影響があるなかで、どのような戦略を用いて生きてきたかを考察する。ソマリアの地方に住む大部分の人々と同様に、牧畜民と商人は、極端に苦しい状況下で「くよくよしないで、生きろ」というスタンスを試みている。外部からのソマリアに関する認識は、いまだ混乱や戦争というイメージだが、数十万人の牧畜民や商人は、ソマリアにおいてもっとも価値のある商品、つまり家畜を効果的に生産し、売買している。牧畜とそれによって促進される越境交易という活動は、ソマリアの生計や経済の中核を構成している。本発表では、こうした活動は、人々を分断するだけでなく統合する可能性があり、また、1991年以降の紛争の原因や、大多数の国民が生きながらえたと事実の分析にも役立つことを論じたい。食料の安全保障に関しては、本報告は、長期化する紛争と頻発する旱魃の地方の人々への影響は、不均等なものであることを示す。ジュバ川下流地域、特に東部の牧畜地域の状況は比較的良好である一方、他地域は栄養不良と飢餓に苦しんでいる。なお、本発表のもとになったのは、1986年から1988年までの、ソマリアにおける人類学的調査と以下の補足調査である：ソマリア・ケニアの国境地域における商人と越境交易の調査(1996-1998年と2001年)、そしてアフリカの角における越境交易と食料の安全保障に関する共同研究プロジェクト(1999-2003年)。

ピーター・D・リトル教授

米国エモリー大学文化人類学科教授。現在、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科客員教授として日本に滞在中。インディアナ大学人類学部で博士号を取得(1983)後、ケンタッキー大学人類学部教授などをへて現職。東アフリカを対象とした、経済人類学、生態人類学、開発人類学、牧畜研究などの領域で多くの業績がある。著書に*Somalia: Society without State* (James Currey, 2003)、編著書に*Understanding and Reducing Persistent Poverty in Africa* (Routledge, 2008)、*Commodities and Globalization: Anthropological Perspectives* (Rowman & Littlefield, 2000)、*Anthropology of Development and Change in East Africa* (Westview, 1988) などがある。



大阪大学吹田キャンパス人間科学研究科東館106講義室
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番2号

問い合わせ先

大阪大学グローバルコラボレーションセンター

TEL:06-6879-4442 FAX:06-6879-4444 E-Mail:jimu@glocol.osaka-u.ac.jp <http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/>